

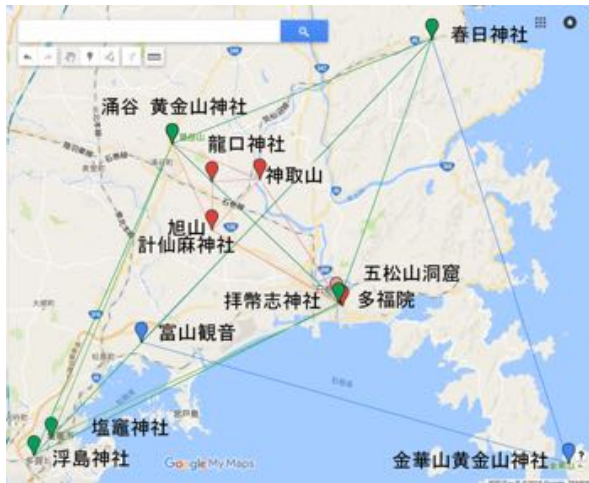
はじめに

大朝日岳と大沼浮島との出会い

大好きな東北の歴史を探っているうちに、隣県山形県にある朝日岳と大沼浮島に出会いました。朝日岳の山岳信仰「朝日嶽信仰」は鎌倉時代に北条時頼により1000年封じされたまま。そして大沼浮島は、湖面に浮かぶ葦の島が、意思があるかのように自由に動き回ることでも有名な沼です。私も何度も足を運びついに島が動くところを見ることができ感動しました。どちらにも役の小角伝説があります。



15年ほど前から祭祀線を調べていますが、なにかと大朝日岳と大沼にラインがぶつかってくることに気づきました。ただ、紙地図に鉛筆ではアバウト過ぎて確実性が得られませんでした。しかし一年前、無料地図ソフトにコンパス機能がついたものを発見しました。その結果、神々をつなぐ祭祀線は、本殿や奥の院、山頂などとズレのないピンポイントで繋がることわかりました。そして、大朝日岳・大沼浮島、そして岩手県の早池峰山は、古代には東日本最大の聖地で、大和朝廷はそれを利用して祭祀線をしくんできたのではないかと思うようになりました。もちろん、日本中の聖地や神社仏閣も祭祀線で網目のように張り巡らされ利用されてきたようです。しかもその「しくみ」は現代においても権力者達のために優位に使われているようなのです。



「三角祭祀線」は「カバラ」

神々をつなぐ相合傘。三角形を基本とする祭祀線は、ユダヤ教の神秘主義思想「カバラ」の「生命の樹（セフィロトの木）」の三角形、そして十字架と似ています。古代出雲族や天孫族がユダヤから来たとされる日ユ同祖論や、密教との類似性も指摘関連されていることも考慮すると、神社仏閣等の配置は、地上に施したカバラなのだと思います。

ただ、カバラには高次元の世界から物質界までを表した「生命の樹」に対して、「邪悪の樹」というものがあるそうです。生命の樹が上に「高次の光」を目指していくのに対して、邪悪の樹は下の「虚無」の世界に引き込まれていくのだそうです。

もしかしたら私たちは、古代から「生命の樹」と思いながら「邪悪の樹」を信じて生きてきたのかも知れません。

「天の岩戸開き」

だとしたら、その始まりは日本神話の「岩戸開き」だったのではないのでしょうか。

「嘘と暴力の岩戸開き」と俗に言われていますが、なぜか知らないと確かにすっきり理解できません。世界中の太陽神は男です。命を生み出す大地や海は女神。隠れていた太陽の神は、本当は男神だったと思うのです。神話に登場する神はどれも人間味があるのが特徴です。ですから、女神のトップアイドルだったアメノウズメのストリップは、きっと太陽神も見たくなってしまったのです。そして覗いたとたん、鏡を見せられ、そこに映っている神(逆の自分)こそが、新たに現れた最も尊き神だと嘘を告げられ、さらに岩戸を開いてしまったところを強引に引きずり出され、戻れないようにすぐにしめ縄で封印され、鏡の中の邪悪なしくみの世に入れられてしまったのです。おそらく真実は、男神は殺され、別の女神が君臨したのではないのでしょうか。

嘘、暴力、誘惑の道具として、鏡と榊(邪悪の樹)、しめ縄(封印・監禁)、女神の裸が使われました。「命の樹」に鏡を置くと正反対の「邪悪の木」が見えるのだそうです。これが「逆さの樹」すなわち「榊(サカキ)」です。もしかしたら本当の神の木は、茨城以西にしか分布しないサカキではなく全国に分布する「正木(マサキ)」だったのかもしれない。岩戸開き以来、日本の太陽の神は反対の女神に仕立て上げられたのです。そして私たちは、贄として賽銭や供えをし、鏡に参拝させられます。純粋な祈りの気(念)は「高次の光」には届かず、反射し、真逆の「虚無」に向けて発せられてきたのです。私の住む地域では、妊婦が葬式に出るときは腹帯に鏡を入れて胎児を悪霊から守る風習があります。鏡は念(気)を弾き返すのです。そして、しめ縄により、私たちの魂も高次の光には向かえないように封じられているのでしょう。負け組とされる出雲系の神社は石がご神体です。そしてとても太いしめ縄がかけられています。現在の日本の最高神、天孫系の天照大神の伊勢神宮には、しめ縄が見当たりません。そこに全国の気が吸い込まれていくのでしょう。

「生命の樹」と思いながら「邪悪の樹」を信仰させる。その結果、利益のために戦いを繰り返す欲得にまみれた世となってしまいました。そして聖地に集まったその邪な気は、さらに悪の権力に利用されているのです。そのための「カバラ」が1500年おそらく2000年以上も前から日本中に施されてきたのだと思うのです。

以上が私の妄想歴史です。このサイトではそれらの三角祭祀線のカバラを単純に「しくみ」と呼び、大切と思われる一部と、15年間研究した「しくみ」の作り方と意味を紹介いたします。ただし、あくまで私の勝手な見解です。不愉快になられる方もいらっしゃると思いますが、私の妄想をどうぞ笑ってお許しください。また、大変参考になった多くのサイトから勝手に文章や画像を拝借しております。敬意を表すとともに心からお詫び申し上げます。

